



弦楽器専門店リジカーレ代表 チェロ奏者

土山如之氏



プロフィール

静岡県三島市出身。東京音楽大学器楽科チェロ専攻卒業。1997年クオアチアで行われたサマーセミナーにおいてディプロマ取得後、ハンガリーリスト音楽院（現リスト音楽大学）にて学ぶ。2001年修了帰国。現在オーケストラ、室内楽、ミュージカルなど幅広く演奏活動をしている。静岡交響楽団楽員代表。

顔が見える関係の 地域の音楽活動の拠点

三島市南二日町に店舗を構える「リジカーレ」は、県内でも珍しい、技術者が常駐する弦楽器専門店だ。2015年にオープン、2018年夏に現在の場所に移転。音楽教室も構え、周辺地域の弦楽器奏者の拠り所となっている。ユニークな同店の代表で、静岡交響楽団に所属し、プロのチェロ奏者としても活躍する土山如之氏にお話を伺った。

リジカーレはどんなお店ですか？

弦楽器を中心とした楽器の販売・修理と、音楽教室の大きく2つが業務内容です。当店の大きな特徴は、調整や修理を担う工房が店に併設されていることです。現在2名の技術者がいます。大切な楽器のことを、直接ご相談いただける環境です。音楽教室は、ヴァイオリンからコントラバスまでの弦楽器やピアノ、ソルフェージュ（音楽の基礎教育）のレッスンをしています。年に一度、子供から大人まで練習の成果を発表する会があります。また、コンサートなどへの出演や、音楽イベントの企画、演奏者の紹介、派遣といったことも行っています。

安心して楽器を任せられる職人が常駐する楽器店

新しい店舗は、2階がレッスン専用の階になっています。綺麗な環境で、集中して演奏に取り組みます。ピアノ・ソルフェージュ・ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバスのレッスンを行っていて、初めての方から腕を磨きたい方まで、豊富な講師陣が対応します。3階にはサロンスペースがあり、楽器の展示会や小さなコンサートなどに使っていました。お持ちの楽器のメンテナンスを店舗で受けられるので、安心して楽器に向き合ってもらえるのではないかと思います。

また、アンサンブルも弦楽器の楽しさです。色々な音が重なり合うことや、相手とのコミュニケーションなど、個人での演奏から団体での合奏まで様々な関わり方ができる魅力を伝えたいと思っています。

コロナ禍で、演奏活動や音楽教室にも大きな影響が出たと思いますが、今どのような活動をしていますか？
音楽教室の年に一度の発表会は、昨年3月になんとかできたのですが、自分の演奏活動は3月後半から7月はじめまで、対面のものが全部キャンセルになりました。店舗の方も来店されるお客さんが減りましたが、音楽教室は体験の予約が増えました。遠方から来ていただいている先生は来られなくなったので、オンラインでのレッスンも希望があれば行いました。

秋になって、静岡交響楽団はじめ、ホール等でのコンサートも戻ってきました。

——どうして三島でこのお店を始めようと思ったのでしょうか？

東京の音楽大学を卒業した後、留学していたハンガリーから2001年に帰国し、故郷の三島に戻りました。「職人が常駐する楽器店」という構想は、この頃からありました。周辺に楽器のメンテナンスをしてもらえる場所がなく、東京まで持っていくというのですが、色々な楽器を扱う大きな店舗でも、修理の窓口にはなるけど、修理自体は外注ということが多いです。自分の大切な楽器を託すのだから、どんな人が修理しているのか分かった方がいいと考えていました。職人さんの顔が見えれば、自分に合う人を探すこともできますよね。

留学前は東京を拠点に活動していたのですが、帰国した翌年に静岡交響楽団に入団し、静岡県内のネットワークもできて、演奏家事情も分かってきました。三島に実家があり、ひとりっ子なので、いずれは三島を拠点にしていこうと考えていました。お店を作ることを決めたのは2014年の8月で、10月には会社を作り、翌年すぐにオープンしました。

一番苦労したのは、常駐する楽器職人を見つけてのことです。今、弦楽器の修理が学べる学校は、国内に数カ所しかありません。

生の音楽の力を伝える場 が失われないように

——三島についてどんな印象を持っていますか？

適度に田舎で都会に出やすい、暮らしやすいところだと思います。演奏活動にも不便はありません。

2002年から、市内の小学校をまわって生演奏をお届けする「小さな音楽会」を行っています。毎年様々なジャンルの演奏家の方をお招きして、子どもたちや地域の皆さんに楽しんでいただいています。

音楽などの芸術活動は、世の中に余裕がなくなれば真っ先になくなってしまってもかまいません。ですが、動画では感じられない、生の演奏でしか味わえないリアルタイムの音楽の力はやはり大切なものです。それが失われないように、続いていくように努力していきたいですね。

病気を経て気づいた、 音楽との向き合い方

転機があったのは20歳の時です。ガンが発覚し、このまま死んでしまうかもしれない、と思ったときに、これまでやってきた音楽に、もっと本気になってみようと思っただけです。卒業後はアルバイトをしながら練習を続けていましたが、環境を変えたいと思い、縁がありハンガリーの奏者のもとに留学することができました。そして、帰国して今に至ります。

——リジカーレは音楽教室も運営されていますが、どんな特徴がありますか？

私は三島の生まれ育ちですが、両親の勧めで5歳からヴァイオリンを、10歳くらいからチェロを習っていました。子供の頃は「外で遊びたいなあ」と思っていたし、そんなに真面目にやっつてはいませんでしたね。それでも中学3年生までは続けて、受験で一度やめました。

再開したのは高校3年生の3月です。受験が大変だった第2次ベビーブーム世代なのですが、浪人するにも勉強以外で勝負できるものはないかなあと考えたら、そいうだ、昔チェロやってたなと思いついて、音大に行きたいと思うようになりました。それで、3年半ぶりくらいに東京の先生のもとでレッスンを始め、東京音楽大学に入学しました。大学では室内楽に出会い、アンサンブルの楽しさを知りましたが、そんなに熱心な学生ではありませんでした。



音楽教室の発表会

三島カルチャーをつくる人びとは、三島の文化応援プロジェクトが、三島周辺に拠点を置く企業や三島の文化に関わる方々に、三島の文化についてインタビューするシリーズ企画です。配布場所／生涯学習センター、三島市民文化会館、市内文化施設等。詳しくは下記のWebサイトをご覧ください。



弦楽器専門店 リジカーレ
三島市南二日町 21-6
<https://www.riscare.jp>